



CCJ ユーザズ・ミーティング ヘビーユーザーとしてのレポート

金田雅司

理研BNL研究センター

CCJの利用状況、自分の場合

● PHENIX のデータから π^0 方位角異方性の解析

–1TBのdiskを作業ディスクとして使用

- uuDST の置き場所

- bbftpを使ってRCFからCCJへの全ての run2 Au+Au uuDST (3.2TB)の転送に実時間で8週間

- それをスキャンした結果のヒストグラム・ファイルの置き場所として

–Nodeの使用

- 最初一つのuuDST(40~400MB)をTChainでまとめて直接読んでいた
 - I/O の負荷がかかりすぎ

- TTreeを作ってそれを解析することに変更

- 1セット4GB位の TTree達を /job_tmpに置いてスキャン

- ゆるいカットで π^0 の不変質量を組んでいるので大量のメモリを使用

- 最大約600MB一時使用, 最大スワップ量 約1.8GB

- 最終的には RCF と CCJ 約半々両方使用